NCOA - Fax - News　H21 - 17 号〈H21.7.16〉

－第２１回日本運動器リハビリテーション学会に参加して－

ゆきよしクリニック　荻荘　則幸

７月１１日に品川で行われた第２１回日本運動器リハビリテーション学会に参加してきました。
１９５８年に日本理学診療医学会が東京で開催され、１９９０年には学会誌「理学診療」が発刊された。その後、高齢者の運動器機能不全が国民の介護負担に関係することが明らかになり「運動器リハビリテーション」の重要性が認知され２００４年に名称を「日本運動器リハビリテーション学会」に変更されました。２００６年４月の診療報酬改定で運動器リハ料が収載され、その診療の質を高めるため、運動器リハ医師研修会が開催され、さらに診療施設の質を高めるため運動器リハセラピスト研修制度が開始されました。また２００８年４月に日本整形外科学会に認定運動器リハ医制度が設立された。
「日本リハビリテーション医学会」にも入会している私には、この二つの学会の関連がよく分かりませんでした。しかし、この学会は２００４年まで会員が約１,２００名でしたが２００５年に一挙に約３,６００名に急増している点が全てを物語っています。つまり、診療報酬制度、運動器リハと密接に関係していると・・・
今回のパネルディスカッション等でもＪＣＯＡ藤野理事長はこの８月（？）の衆議院選挙で自民党から民主党に政権がかわると〝リハビリ日数制限〟〝医療保険が急性期、回復期のリハビリ〟〝介護保険が維持期のリハビリ〟を担うという制度、が撤廃されるかもしれないと講演していました。今後のリハビリをとり巻く環境、制度には全く目が離せません。また今年度の運動器リハのセラピスト研修会、仙台、幕張に関して新型インフルエンザが流行した場合どうするか問題とされてました。
遠藤教授は、学会のプロジェクト研究発表にて骨粗鬆症、寝たきり防止早期離床ツールの開発について発表していました。次期プロジェクトには変形性膝関節症の大腿四頭筋筋力訓練器を開発応用した研究に関して４００万円の奨励金を大森豪教授が獲得していました。
２０１０年は７月９日（金）、１０日（土）に仙台国際センターで第２２回の学会が開催されます。また、２０１１年７月９日（土）、１０日（日）は新潟で開催されます。